

頁	誤	正
page 10; 図 2.1	$\psi = A \cos \theta$	$\psi = A \sin(\theta - \pi/2)$
page 34; 下から 2 行目	物質に衝突したり	物質中の原子核に衝突したり
page 39; line 1	室温 20°	室温 20°C
page 47; line 8	換算質量は $\mu = \sqrt{2}m_n$	換算質量は $\mu = m_n/2$
page 35; 下 4 行目	3.2 は	図 3.2 は
上記と同様	3.5、3.12、3.17、3.18、3.19	図 3.5、図 3.12、図 3.17、図 3.18、 図 3.19
page 62; 式 (3.84) 1 番目の積分	$\int_{V_P} \beta(\mathbf{r}') e^{-i\mathbf{Q}\cdot\mathbf{r}} d^3\mathbf{r}$	$\int_{V_P} \beta(\mathbf{r}') e^{-i\mathbf{Q}\cdot\mathbf{r}'} d^3\mathbf{r}'$
page 75; line 10	以下に、	表 3.5 に、
page 78; 図 3.25	原子	原子核
page 100; 下から 6 行目	系内の粒子体積分率 ϕ を大きくなる、	系内の粒子体積分率 ϕ が大きくなると、
page 117; 式 (4.107)	$\log I(Q \rightarrow \infty)$	$I(Q \rightarrow \infty)$
page 120; 式 (4.120) の下	ここで、 τ は分散指数で、 M_z は次式で与えられる z -平均質量 (分子量) である。	ここで、 τ は分散指数である。また、 $h((M/M_z)$ は M/M_z の関数で、 M_z は次式で与えられる z -平均質量 (分子量) である。
page 120; 式 (4.122) のすぐ上の行	$I(q)$	$I(Q)$
page 126; 式 (4.144) のすぐ下の行	$\Phi^2(U) \approx 1 - (1/3)R_g^2$ となり、	$\Phi^2(U) \approx 1 - (1/3)R_g^2 Q^2$ となり、
page 144; 式 (4.263)	$= \textcolor{red}{S}_{AA} \frac{\det S}{\sum_{ij} S_{ij} - 2\chi_{AB} \det S}$ $\times (\delta W_B - \delta W_B)$	$= \frac{\det S}{\sum_{ij} S_{ij} - 2\chi_{AB} \det S}$ $\times (\textcolor{red}{\delta}W_A - \delta W_B)$
page 144; 式 (4.264)	$= \textcolor{red}{S}_{BB} \frac{\det S}{\sum_{ij} -2\chi_{AB} \det S}$ $\times (\delta W_B - \delta W_A)$	$= \frac{\det S}{\sum_{ij} \textcolor{red}{S}_{ij} - 2\chi_{AB} \det S}$ $\times (\delta W_B - \delta W_A)$
page 145; 下 2 行目	文献 17) を 1 つ削除	
page 167; 式 (5.96)	$k_x^2 + k_z^2 = (k_x + \epsilon(\textcolor{red}{^2} + \delta^2 + (\xi - k_z)^2$	$k_x^2 + k_z^2 = (k_x + \epsilon\textcolor{red}{^2} + \delta^2 + (\xi - k_z)^2$
page 171; 10 行目	突く	撞 (つ) く
page 173; 2 行目	不連続的に離れたところ現れる	幅広く現れる
page 183; 4 行目	が実験から直接	を実験から直接
page 187; 式 (6.42) の下 2 行目	第 1 項は	第 2 項は
page 188; 下 5 行目	段面積	断面積
page 191; 10 行目	1923 年	1932 年
page 197; 下 5 行目	局所線減衰計数	局所線減弱係数
page 215; 下 8 行目	中性子散乱装置は	中性子散乱装置の多くは